

講演会

「糸魚川 - 静岡構造線が生み出した自然資源と魅力」

日本列島の本州中央部を南―北に縦断するフォッサ・マグナがナウマン博士によって提唱されてから現在まで140年ほどが経過しました。この間には、フォッサ・マグナ西縁の大断層である糸魚川 - 静岡構造線こそが日本列島を東・西に二分していることや、この大断層の見事な現場が、早川町内に多く分布していることがわかってきました。

今回の講演会では、糸魚川 - 静岡構造線が日本列島形成史のみならず、地球スケールでも科学的な価値を持つに至った経緯を説明し、さらに地形・地質分野からの見どころを中心に、早川町内における観光分野への貢献方法などの紹介をします。多くの皆様の参加を希望いたします。



早川町新倉の大断層

◎日時 令和7年6月7日（土曜日）午前10時～午前11時30分

（受付は午前9時30分から）

◎会場 早川町役場2階会議室 （住所：早川町高住758）

◎参加費 無料

◎演題

・「早川町内を縦断する断層現場の科学的価値と見どころ」

・・・（山梨県立大学 客員教授 奥水達司）

問い合わせ先：日本上流文化圏研究所（電話：0556-45-2160, <http://www.joryuken.net/>）

主催：日本上流文化圏研究所

糸魚川 - 静岡構造線資源活用プロジェクト in 早川